SORA
web magazine 2013.jul. vol.20

chuuk チューク

Photo & Text : Yasuaki Kagii

MAP CLICK!

沈船だけじゃない!
極上・チュークの癒しの海へ、飛び込め!

グアムのお隣にあるチューク。とっても近いのに、なぜだが、まだまだメジャーでない…。マニアックな沈船にイメージが優先していまったから？　うん、確かに、そうかもしれない。沈船ポイントは、確かに少し特別だけど、チュークの魅力は、それだけではない!世界的に見ても、クリアな水と南国の雰囲気が最高に心地よい!

tsumi-shima
ダイバーの夢をつみあげていく島
tsumishima.com
We World explorer
(株)ワールドツアープランナーズ
www.wtp.co.jp
© 2012
World Tour Planners Co.,Ltd.
All Rights Reserved.

フェイリフ島へ!

2度目のチュークへの旅。今回の取材は、お天気に恵まれたことで、更なる魅力を発見した。それは小さな島のことだけど、チュークのダイビングを知る上で、とても大きなことだった。

島の名は、「フェイリフ島」。チューク環礁のお隣、キミシマ環礁にある島で、取り囲む海のグラデーションが本当に素敵だった。濃淡色のソーダ水のような輝きに心がとろけそうになる。

そして、嬉しいことに、キミシマ環礁のダイビングポイントはこの島の周囲に広がっていた。

Chuuk チューク

エッジ・オブ・クオープに潜れ！

フェイリフ島のあるリーフの延長上にある「エッジ・オブ・クオープ」。ドロップオフ沿いを潮の流れに乗りながら、ダイビングしていく。まず驚くのは、透明度の高さ。それはエントリーする前に、ボートの上からも十分に確認できたけど、実際に包まれてみると、その心地よさだけでも、「この海に来た価値は十分にあり!」。

そして、海の先までよく見えるので、なんだが、気分は飛んでいるみたいだ。リーフを眺めていくとハナゴイがたくさん群れている。青い海とピンク紫の色がなんだかとっても可愛い。ブルーウォーターでもツムブリなどの群れがわんさか。そして少し深度を下げると、マルチカラーエンジェルフィッシュやバージェス・バタフライフィッシュなど、レアもののお魚にも会える。その生き物たちとご対面した印象は、人馴れしていない感じ。

個人的に嬉しかったの最後のリーフエッジの小ぶりのサンゴが群生していたこと。次回、訪れたときに、このサンゴの丘はどんなに成長しているのだろう。そう思うと心がウキウキした。

tsumi-shima
ダイバーの夢をつみあげていく島
We World explorer

Ocean 海

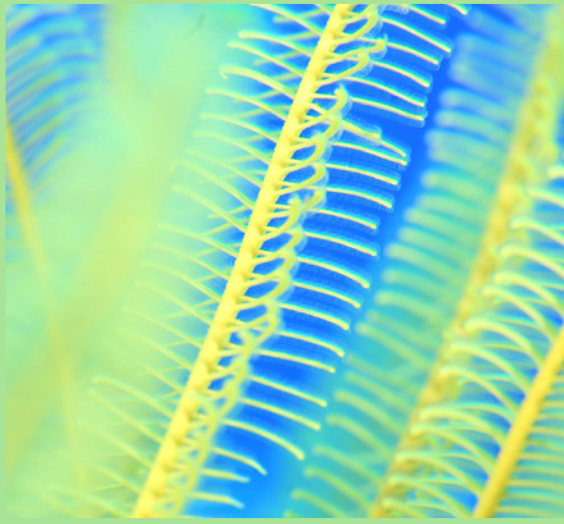
キミシマ環礁は、特別な1日！

キミシマ環礁は、個人の持ち物で、許可なく立ち入ることができない。そのために、釣り人などもいなく、海洋保護区になっている。また、チュークにある外国人ダイビングセンターは、ほとんどキミシマ環礁には遠征してこないので、この南国の景色と海中世界を独占することができる。

約 1 時間ほどのボートトリップで、キミシマ環礁に到着すると、時間の流れがゆるやかなことに気が付く。美しい青い世界に包まれ、何か脱ぎ捨てるかのように、ポンポンと３ダイブを重ねる。

「エッジ・オブ・クオープ」以外の代表的なポイントは、「ウエスタン・ケーブ」と「アンティアス・ロック」。どちらも素敵なポイントだった。ドロップオフのくぼみでニチダテハゼを見つけたり、少し遅い時間に群れるナポレオンを眺めたり。

キミシマ環礁での１日は、特別な１日になること間違いなしだ。



Chuuk チューク

海 Ocean

水中写真家・鍵井がお薦めのシャークアイランド！

チューク Chuuk

キミシマ環礁は、本当に美しい。でも、もうひとつお薦めのポイントがある。それは、「シャークアイランド!」。サメ好きの写真家としては、このネーミングからも溜まんない…。

水面に浮かぶ南国小島の周辺で、潜るのだが、この島の周り、サメが多い…（素敵）。もちろん、人間を襲ってくる凶暴タイプではなくて、グレイリーフシャークという美しいサメ。そして、驚きは、このポイントの中心に大きな根があって、そこがなんとサメたちのクリーニングステショーンになっている。旋回したサメが、根に近づいて、大きな口を開けてベラにクリーニングされる。ただ口を開けるだけでなく、なんとなくそのまま沈んでいく。ちょっとすると、「あっ、これは危ない!」と体制を整えて、また何もなかったように泳いでいく。その珍しいシーンだけでも興奮ものだが、私は、この写真を撮影するときに駆け引きが大好きなのだ。サメの気持ちを損なわないように、可能な限り接近して、撮影をすることの許しを請う。ふつうのお魚じゃなくて、サメでやりとりするのが溜まらない。そんなにうまくいかな時が多いけど、是非、皆さんにもお薦めする（笑）。

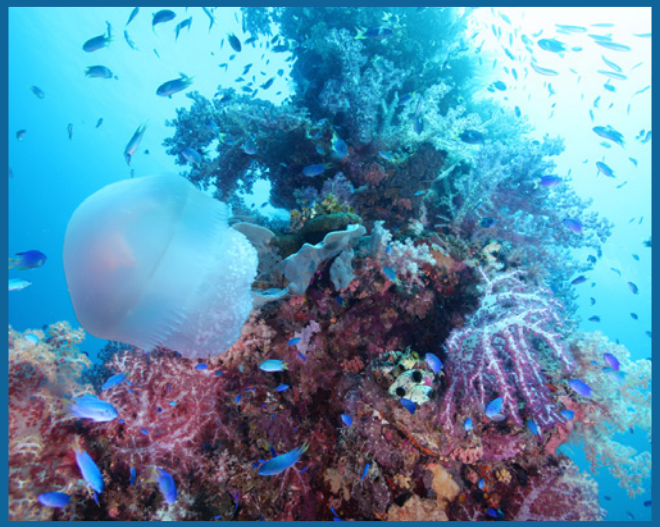
このポイントは、インリーフだが、アウトリーフの魚が見えるのも魅力。ボートでの所要時間も20分なので、気軽にエントリーできる。

tsumi-shima
ダイバーの夢をつみあげていく島

Ocean 海

ところで沈船ありましたか？

Chuuk チューク



チュークの海の特徴を紹介するときに、外せないのでは、やはりレック（沈船）ダイブ。

太平洋戦争で沈んだ日本海軍の船に潜ることができる。私自身、数年前に初めてチュークに訪れて、このレックダイブを経験したときは、本当に驚いた。海中にこのような独特な世界があるのだと気が付かされたとき、今まで、自分を「ダイバー」だと言っていたことが恥ずかしく思えた。「ダイバー」＝「海の中を知るもの」と少し自負していたが、まだまだ何も知らなかった。海の中には、大きな史実となる、忘れてはならない遺産が残っているのだと。

写真の神國丸は、初級者からエントリーできる沈船。水深が浅いために、サンゴが群生し、お魚がごっちゃりと群れている。エントリーしたゲストと中には、潜り終えて、「ところで沈船ありました？」と聞かれたこともあったという。数年ぶりにエントリーしたが、以前にも増してソフトコーラルが群生し、ギンガメアジやバラクーダ、ツバメウオの群れ、そしてグルクマの集団捕食シーンに出会えた。進化を続ける沈船になっていた。

Romance ロマン

Chuuk チューク

ザ・ペネトレーション

チュークでは本格的な本当のレックダイブを経験することができる。初級者から上級者までエントリーすることができる沈船がある。富士川丸、神國丸は初級者から潜ることができ、船の周囲を潜るだけでも十分に楽しむことができる。中級者からは、ペネトレーションと言われる船内探索をすることができる。様々な船の内部に入ることで、レックダイブをより楽しむことができる。また、ペネトレーションにもレベルがあり、同じ船でも違うルート、楽しみがあり、毎回潜るために新しい発見がある。

写真は、りおで志ゃねろ丸。昔、日本〜リオデジャネイロを航海していた船で、沈船の中では、２番目に大きい客船で、１ダイブでは全て回ることができない。全長 140m。見所はいくつもあったが、最も驚いたのが、船倉に眠っていた大量の赤玉ポートワイン。戦時にありながら、海軍は潤沢は食料を確保していたことを物語っていた。また、ワインボトルは、当時の新聞で巻いてあった。

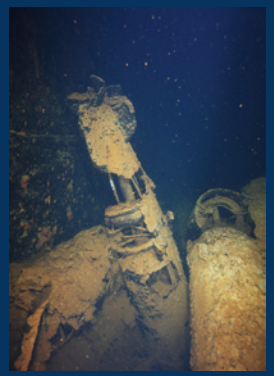
現存する一式陸攻

沈船以外では、戦闘機が海中に沈んでいる。写真の「一式陸攻」は、山本五十六氏が、フィピリン上空で撃墜されたときに乗っていた機体と同型機。ジュラルミン製のために腐食も往時のままの原型をとどめている。現存する一式陸攻は、これを含めた２機と言われていて、保存状態が良いのが、この機体だ。周囲には、機関銃なども見つけることができる。

Romance ロマン

Chuuk チューク

平安丸は、横浜にある氷川丸の姉妹船で、潜水母艦として活躍していた。３姉妹は日枝丸と氷川丸で、氷川丸は、戦時中に病院船として活躍していた。平安丸は、世界最大級の沈船で全長は、166m。１万トン超える船だ。潜水母艦とは、潜水艦の部品を運んでいた船で、潜水艦用の潜望鏡や酸素魚雷（酸素が動力の魚雷）など運んでいた。船には、錨と桜が刻まれた帝国海軍のマークを持つやかんや、キリンビールの瓶などが見つかる。船の周囲には、個体の大きいギンガメアジの群れもみることができる。



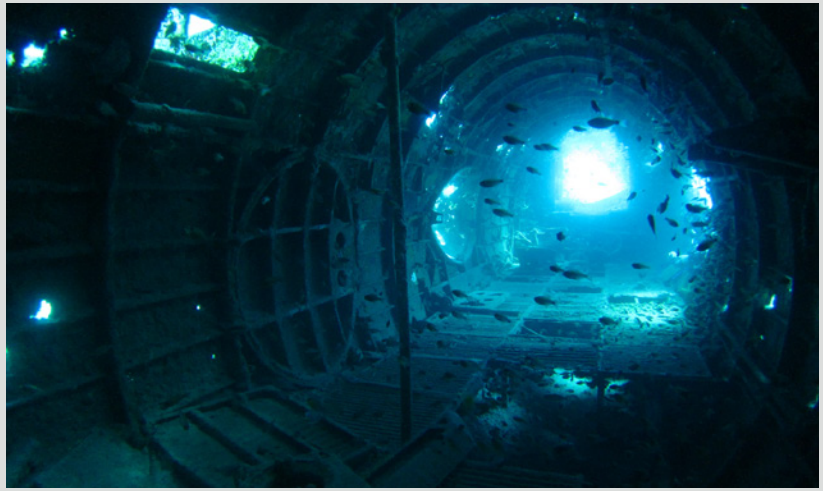
写真家として、今回の撮影で、もっとも心残りとなったのが、「伯耆丸」だった。前日にスタッフのみんなと「明日は、どこに潜る？」などと話し合い、各沈船の魅力を聞いて、ポイントを決めていくのですが、そこで、「鍵井さんなら、この沈船をどう撮影するのか見てみたい」と言われたのが、「伯耆丸」だった。特に、後ろの船倉にあるトラック９台。ブルドーザー、ロードローター、トラクターなどなどが課題で、これらの積載物をプロならではの構図、視点で見てみたい…」と、ある意味、挑戦状を突き付けられた（笑）。

結果は惨敗だった。想像していたよりも光の差し込みがなく、アングルを狙いすぎて、狭い隅に着底した瞬間、砂煙が…。結局、今回はロケハン（下見）ということで、このような写真での、お披露目となった。

また、チューク３大沈船のひとつである富士川丸もお薦め。深度も浅く、初級者から楽しめる。そして、映画「タイタニック」のモデルとなった船なので、イメージを膨らませることができる。

行動 Action

チューク Chuuk



新しい（かわいい）スタッフのｕｍｉちゃん!

取材の時は、３回目のリピーターだった umi ちゃんが、スタッフとなってチュークに帰ってきた!そんな umi ちゃんが、ゲストだった時にインタビューした記事と彼女の作品をご覧ください!

チュークの海の魅力は、何度も潜っても飽きないところです。今回、潜ったなかで、特にお気に入りのポイントは、サンフランシスコ丸、富士川丸、トレジャーズリーフです。

サンフランシスコ丸は、エントリーした瞬間は何も見えないですが、30mくらいから船体が見え始めると、「出た～!」と思いますね。深度のある沈船なので、ソフトコーラルがついてないぶん、「船!」って感じです。富士川丸が好きな、理由は特にないです。感覚で好きになるタイプなので…。ペネトレーションも楽しいので好きですね。船によってコースも色々あるし、迷路みたいですから。船内で細かいパネルなどを見るのも楽しいですが、ダイバーが通路や階段を通っているシーンを見るのが、好きです。当時とは違うのですが、本質的なものは同じような気がして。時間が経って、人物は違うけど、船という景色の中に人がいるのを見るのが好きなんです。

他には、チュークで色のきれいな写真が撮りたいですね。被写体としては、マンジュウイシモチ、アカメハゼ、ギンガハゼの黄化個体です。画面の中で、ピンクや黄色のうまく配分した写真が好きです。だから、じっくり撮影できるトレジャーズリーフが好きなんですが、「まだ、ギンガハゼだけが納得できる写真が撮れてない～!」という umi ちゃんでした。